

## 平成29年度 学校評価実施報告書

幼稚園名 ( 上賀茂 幼稚園)

1	幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">保育の改善・充実</span> ・「自ら学ぶ力」を高めるための環境構成として、心が動き、遊びたくなる環境づくりを意図的に行う。心が動くことで友達や先生に伝えたい気持ちが生まれる。 ・「自ら律する力」を高めるための環境構成として、人とのかかわりが生まれる環境づくりを意図的に行う。話したくなること、話したい人がいることで、「思いを伝える」「思いに気付く」心の育成を図る。
	(取組結果を検証する) 各種指標 ・幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討 ・アンケート項目「子どもは自分から遊びを見つけて、夢中になって遊んでいる」 「感じたり思ったりしたことを言葉や身体を使って伝えようとしている」 「友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいる」
	各種指標結果 (1回目) ・「夢中になって遊ぶ」(3. 75 P)「思いを伝える」(3. 69 P)「友達と遊ぶ」(3. 71 P)といずれも3. 6 Pを越えて高い。また、どの項目もAB評価が90%以上で高い。これらのことから、保護者からは「子どもたちは夢中になって遊んでいるし、友達とともに遊びを楽しみ、思いを伝えようとしている」と見てもらえているようだ。しかし、「思いを伝える」「友達と遊ぶ」でCDという低い評価が4%あった。
自己評価	分析 (成果と課題) ・行事ごとに子どもたちの成長を感じる。自分の好きな遊びを見つけたり、友達と一緒にごっこ遊びに夢中になったりしている姿が見受けられる。 ・思いを伝えることには、やや戸惑いをもっている子どももいるが、係の仕事やグループ活動などで伝え合う場面をつくっている。 ・週案の記述は丁寧に行い、環境構成に務めてきた。支援員とも週案をもとにして共通理解してきた。
	分析を踏まえた取組の改善 ・引き続き週案への評価の記述を丁寧に行い、研究とも関係付けながら事例検討を進め、子ども一人一人の課題を明確にして協力体制で教育を進めていく。 ・行事や子ども一人一人の普段の遊びとの関連性を考えたり、遊びの連続性を配慮しながら、今後も環境構成を整えていく。 ・遊びのねらいやグループ活動でのねらいなど、保護者に説明する機会を多くしていく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・いつも園児の元気な声が聞こえる。子ども同士及び大人との会話の中に激しさは感じられない。穏やかである。 ・園児は自分の好きな遊びを見つけ、とことん遊ぶまで教師は待っている。大切なことだ。園児は、遊びの中で思いや考えを巡らせている。 ・行事においても園長を中心にして、教職員が園児の遊びを支えている。
評価	評価日 10月13日      評価者 学校運営協議会
	各種指標結果 (2回目)

自己評価	分析（成果と課題）	
	分析を踏まえた取組の改善	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	評価日	評価者

<p>2 小学校への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む <u>幼小接続の視点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意図的な環境構成を通して見られる子どもの姿から「主体的・対話的，深い学び」を視点に子どもの育ちを探る。</li> <li>・絵本ノートを活用し，親子のふれあいや読み聞かせの大切さを保護者に発信し，言葉に対する感覚を育む。</li> <li>・保育を公開し子どもの姿を通して，保育園や小学校の教員と共に幼児期に培われている力について話し合い，就学前施設から小学校への接続を考えるきっかけとなるようにする。</li> </ul>	
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エピソードや写真，ビデオを通して，子どもの姿を「主体的」「対話的」「深い学び」の3つの視点で考察・検討</li> <li>・「親子で絵本」の活用度</li> <li>・互いの保育や授業の参観，事後協議の回数</li> </ul>	
<p>各種指標結果（1回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオや写真をもとにして「主体的」「対話的」「深い学び」について話し合いを進めることができた。その結果，本園としての考え方が固まりつつある。</li> <li>・幼小連携について年度当初計画を立てたが，小学校側の行事の多さから変更を余儀なくされた。幼稚園の公開保育はできたが，保小からの参観は少なかった。また小学校側の公開授業も拒否され見られていない。</li> <li>・今後の幼小連携計画を再検討する必要がある。</li> <li>・夏季における教職員同士の研修会では，それぞれの教育観について交流することができた。しかし，小学校側の認識の甘さを感じた。幼小連携の必要性をアピールしていきたい。</li> <li>・「家庭での読み聞かせ」は，（3．21P）で最も低い。できていないと回答した保護者は</li> </ul>	

<p>21%いた。</p> <p>・読書100冊については、現在4割程度である。</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トップ同士の話し合いが必要だ。小学校担任は、日頃の忙しさからかあまり積極的な態度を見せない。もっと若い先生が動く必要がある。</li> <li>・公開保育を見に来た小学校教諭は、保育の見方が分からない。そこで、丁寧に説明すると理解し、動きも活発になった。感想として、遊びの必要性や小学校と基本的には変わらないこと、さらに授業に生かすために「幼稚園の日常を見る」大切さを感じたとのことである。</li> <li>・今後もビデオや写真を利用してエピソード研修を進める。その中でアクティブラーニングについて明確にし、小学校につなげていきたい。</li> <li>・「家庭での読み聞かせ」でポイントが低いのは、謙遜もあるのだろう。本の貸し出しなどは多い。</li> </ul>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長、園長の共通理解をしっかりとし、交流計画を確実に実施していく。</li> <li>・小学校教諭に保育園、幼稚園の目指すものを理解してもらうために公開保育の機会を多くする。</li> <li>・保幼小ともに勤務時間が違う。中間休みを利用した時間帯の活用を今後も考えていく。</li> <li>・中間休みを使って「図書委員会による読み聞かせ」などを検討していく。</li> <li>・読書100冊を目指して声掛けをしていく。</li> </ul>
	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保幼小が足並みをそろえることはできないし、する必要はない。その実態を踏まえて小学校教育を考えていくことが、幼小連携である。</li> <li>・互惠性を考えて、今の体制でできることを検討していかないと続かない。</li> <li>・小学校前に「教科的」な指導をしている所があるが（公立幼稚園ではない）、その方法に物申すことはしないが、しかし正しく教えるべきだ。</li> </ul>
評価	<p>評価日 10月13日</p> <p>評価者 学校運営協議会</p>
各種指標結果（2回目）	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	評価日
	評価者

<p>3 自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む</p> <p style="text-align: right;">心と体・生活習慣</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昼食前や降園前など、体を動かす時間の確保を計画的に行う。</li> <li>・遊具を運んだり、組み立てたりする中に多様な動きを経験する機会となっていることを踏まえ、自分たちで遊具などを出し入れしやすい環境になるよう見直したり整理したりする。</li> <li>・給食や弁当を通して、残さず食べられた喜びやみんなと一緒に食べた楽しさを感じられるような環境づくりや声かけをする。</li> </ul>	
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート項目「家庭では、食事のマナーや偏食など、食生活について考えている」 「体を動かして遊ぶことが好きである」</li> <li>・週案の反省・評価の記述</li> </ul>	
<p>各種指標結果（1回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「命を大切に」（3. 54 P）「きまりを守る」（3. 31 P）「あきらめず」（3. 48 P）の結果から「動植物を大切にし、きまりを守ろうとしているか」についてはやや低く、保護者の願いも含まれているようである。</li> <li>・週案には、体を使った遊びを中心に計画、反省、評価がなされている。</li> </ul>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電車ごっこ、お店屋さんごっこ、帽子取り、一本歯げた、竹馬など、年間を通して子どもたちは遊びを楽しんでいる。別々の遊びをしながらも互いの行き来が生まれ、会話がなされるなど人間関係も育ってきている。</li> <li>・粘り強さにややポイントが低かったが、かけっこ遊びや帽子取りなどを通してたくましさは確実についてきている。</li> </ul>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・草花の観察や虫探し、ウサギやウコッケイなどのお世話を通して、命の大切さなどが感じられるようにしている。継続するとともに幼稚園全体で見守っていく。</li> <li>・自分の遊びたい遊びを見つけ、遊びを工夫したり、粘り強くチャレンジしたりできるよう環境を整えていく。</li> <li>・週案に遊びや子どもの変容をこれからも明記していく。</li> </ul>

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・「きまりを守る」と「あきらめずに頑張る」に相関関係が見られる。つまり、「きまりを守る」子どもは「あきらめずに頑張る」子ども。「あきらめてしまう」子どもは、「きまりを守らない」子ども…というようにとらえることができる。 ・日常の遊びの中で注意深く見ていくことが大切である。	
	評価日 10月13日	評価者 学校運営協議会
各種指標結果（2回目）		
自己評価	分析（成果と課題）	
	分析を踏まえた取組の改善	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	評価日	評価者

4 自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する <div>信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え</div>		
・エピソードやビデオ，フォトカンファレンスを通して，子どものしぐさや言動から内面を見取り，子どものありのままを受け入れる教師の資質・能力の向上を図る。 ・自分の思いを伝えたり，友達の思いに気付いたりできるように，間に入ったり見守ったりなどのよりよい教師の援助について探っていく。		
（取組結果を検証する）各種指標 アンケート「友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいる」 「子どもは自分なりに挑戦したり，くじけずがんばったりしている」 「幼稚園は，子どものようところを認め，一人一人を大切にしている」		

各種指標結果（１回目）		
<p>・「友達と遊ぶ」（３． ７ １ P）「一人を大切に」（３． ８ ３ P）でともに３． ６ Pを越え高い。特に「一人一人が大切にされているか」については、最も高い。したがって、人間関係を育てることには理解を示してもらっていると考えられる。しかし、一部ではあるが、まだ集団になじめず、一人遊びを好む時期の園児もおり、気にしている保護者もいるようだ。</p> <p>・毎朝、門にて登園の様子を見ているが、喜んで登園してくる子どもは多い。学期の変わり目に母親から離れず泣く子どももいたが、今はいない。</p>		
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>・体を動かして遊べる環境構成をしてきた。クラスみんなで楽しんだり、少し難しいことに挑戦したりする機会を増やした。その中で、友達ががんばる姿が刺激になって、あきらめずに挑戦する姿が見られるようになった。互いに励ましたりする中で、友達と一緒にがんばれるという気持ちも育ってきた。</p>	
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>・これまで「一緒に遊んでくれない」「嫌なこと言われた」などケンカになったり、思いが通じ合えず悲しんだりする姿があった。同じ遊びをすることを通して、自分の思いを言葉で伝えたり、相手の思いに気付いたりできるように今後も支援していく。様々ないざこざを通して、関わりが深まり、一緒に遊ぶことの楽しさを感じるようになっていく大切な機会と意識して、その都度丁寧に関わっていく。</p>	
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・遊びの中で生まれる衝突は、人間関係を深める絶好の機会である。頭ごなしにダメと言うのではなく、園児なりにその解決策を考えさせることが大切である。</p> <p>・遊びに勝敗はつきものである。結果だけにとらわれるのではなく、最後まであきらめずにがんばる気持ちや友達と一緒に体を動かす楽しさを大切にしたい。</p> <p>・常に園児のことを考え環境を整えている。このような取組が、園児の楽しく登園することにつながっている。</p>	
	評価日	<p>１０月１３日</p> <p>評価者 学校運営協議会</p>
各種指標結果（２回目）		
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p>	
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>	

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	評価日	評価者

園独自の項目	
<b>保護者との連携を深め、子育て支援の充実および幼稚園教育の発信</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てや子どもの成長などについて、何でも話し合える関係づくりに努めるとともに、保護者同士で話し合う場を計画的に設ける。</li> <li>・日常の保育での子どもの姿、変容などを分かりやすく伝える。</li> </ul>	
（取組結果を検証する）各種指標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・預り保育の参加人数</li> <li>・保護者の反応</li> <li>・保育記録の作成と活用</li> <li>・園庭開放の参加人数</li> <li>・ほっこり子育て広場の実施回数（在園児）</li> <li>・ホームページのアクセス数と保護者の反応</li> <li>・アンケート項目</li> </ul> 「園は、子どもや園の様子をわかりやすく伝えているか」	
各種指標結果（１回目） <ul style="list-style-type: none"> <li>・平均３０名の預かり保育。一定しているが、必要に応じて１８時までの利用が増えている。</li> <li>・預かり保育の点検をノートで行っている。</li> <li>・園庭開放は、他園から来られる方が増えている。</li> <li>・ＨＰのアクセス６０～８０回。行事の時などは丁寧にアップすることで最高１日２５０回もあった。保護者からは感謝の意見が多かった。</li> <li>・情報発信（３．６７Ｐ）は高く、すべてＡＢ評価であった。</li> <li>・登降園時に担任から１日の様子を話したり、個別に会話できたりすることもよいようだ。</li> </ul>	
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ＨＰの発信は、各担当者を決め、それぞれが１週間に１度はアップすることになっている。担任や預かり担当者は日常の様子を、保健や事務はお知らせを、行事に関することは園長が。アップ数は増えているが、さらに内容を充実させたい。</li> <li>・パートなどの仕事をする保護者が増えている。今後預かり保育は重要となる。</li> <li>・預かり保育では、支援を必要とする子どももがいたので、複数体制で行っている。時には園長も参加する。このようにして安全を確保しながら遊びを保障している。</li> <li>・これらのことから保護者は、幼稚園の様子がよくわかっているものと考えられる。</li> </ul>
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育では、朝の時間の拡充を考えていきたい。現在要望があるかどうかではなく、体制として整えておくことが重要である。</li> <li>・ほっこり子育て広場では、未就園児の保護者も進めている。続けていく。</li> <li>・降園時を活用して保護者との対話を大切にしていける。</li> </ul>

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・仕事をするお母さん方が増えているようだ。その要望に応えるような取組は大切である。先生は遅くまで残らなければならない。ご苦労様です。 ・「家庭での食育」と「自分のことは自分でと促す」項目に相関関係があるようだ。例えば、食育をしている家庭は、自分ですよう促している。反対に、食育に力を入れていない家庭は、自分ですように促すことはあまりしていないようだ。これらから、家庭と園を結びつけるような取組も必要かもしれない。	
	評価日 10月13日	評価者 学校運営協議会
各種指標結果（2回目）		
自己評価	分析（成果と課題）	
	分析を踏まえた取組の改善	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	評価日	評価者